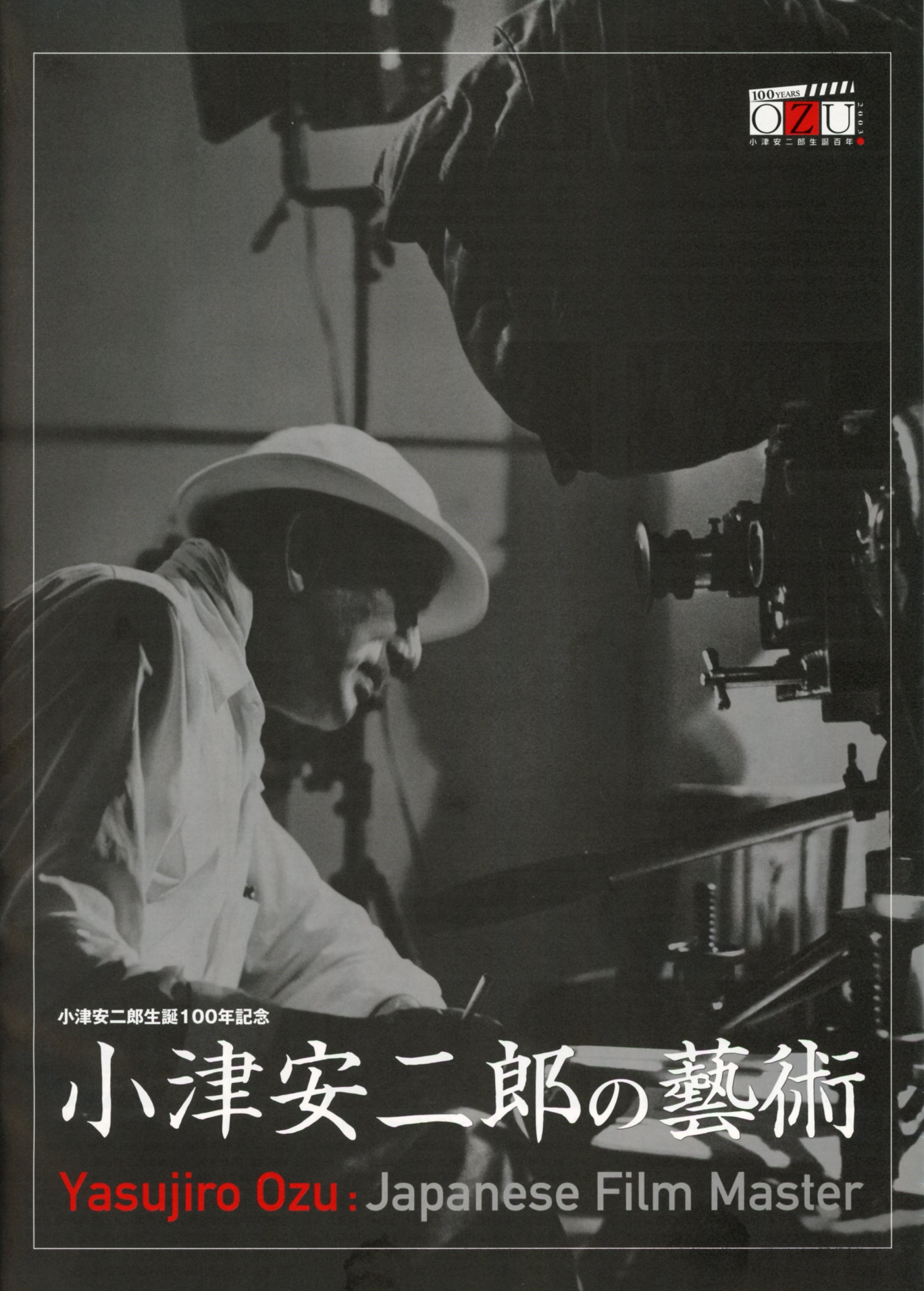


小津安二郎生誕100年記念

小津安二郎の藝術

Yasujiro Ozu : Japanese Film Master

小津安二郎の藝術

Yasujiro Ozu: Japanese Film Master

その作家歴を通して練達の技を磨き、自らの厳格なスタイルを確立し、人間の生死の有様を、笑いと涙と詠嘆で彩りつつフィルムに刻み続け、映画芸術の未踏地に到達し得た監督・小津安二郎。1903(明治36)年12月12日に生まれ、1963(昭和38)年、奇しくも自らの誕生日に世を去った彼は、今年、その生誕100周年と没後40周年を同時に迎えます。

無声時代からトーキー、カラーの時代まで映画史の節目にそれぞれの傑作、名作を発表し続けた生前の小津は、例えば、キネマ旬報年間ベストテン投票で最も多く1位入選(6回)を果たした監督として、日本映画の黄金時代を代表する巨匠となりましたが、没後もその芸術的声価は上がる一方であり、近年は、10年ごとに行われるイギリス「サイト&サウンド」誌の権威ある「映画史上のトップテン投票」(批評家選出部門)でも、最も偉大な映画監督十傑に選ばれるなど世界の映画史に残る映画作家としてその地位をますます確固たるものにしています。

生誕100年そして没後40年という大きな節目を迎えるにあたり、21世紀に語り継ぎたい、日本の貴重な文化財産である小津作品をもう一度見つめ直し、その評価と映画史上の偉大な足跡を振り返ります。

■(監)=監督　(原)=原作・原案　(脚)=脚本・脚色・潤色　(撮)=撮影
(美)=舞台設計・美術　(音)=音楽　(出)=出演
■本特集には不完全なプリントが含まれています。
■記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

『和製喧嘩友達』
(14分・35mm・白黒・無声・パテベビー短縮版・デジタル復元版)

(原/脚)野田高梧(撮)茂原英雄(出)渡辺篤、浪花友子、吉谷久雄、結城一郎

二人のトラック運転手が、迷い込んできた娘をめぐって起こす小さな諍い。1999年には発掘された9.5mm版からのプローアップ版を上映したが、今回はさらにフィルムセンター・松竹の共同でデジタル復元を施し、画面上の傷を極力消去した新しい版を作成した。

『朗かに歩め』　(96分・35mm・白黒・無声)

(原)清水宏(脚)池田忠雄(撮)茂原英雄(美)水谷浩(出)高田稔、川嵜弘子、松園延子、鈴木歌子、吉谷久雄、毛利輝夫、伊達里子、坂本武

強面の謙二(高田稔)は、好きになったタイピストのやす江(川崎弘子)のために、子分の仙公ともども堅気になると決心するが、仲間はそれを許さない…。アメリカ映画の影響も色濃い典型的な与太者の改悛劇だが、高田の二枚目ぶりとラストの巧さには思わず唸る。

『大学は出たけれど』(11分・35mm・白黒・無声・部分)

(原)清水宏(脚)荒牧芳郎(撮)茂原英雄(出)高田稔、田中絹代、鈴木歌子、大山健二、日守新一、坂本武

盟友清水宏の原作を小津の10作目として発表、大スターの絹代と高田の起用が許された。題名は昭和の不況を象徴する言葉であるが、アメリカの喜劇映画に傾倒していた小津はユーモアたっぷりに描いている。

作品解説

■ 無声映画プログラム
■ サウンド版/トーキー映画プログラム
■ 関連作品プログラム

『学生ロマンス 若き日』　(103分・35mm・白黒・無声)

(原/脚)伏見晃(脚)小津安二郎(撮)茂原英雄(美)脇田世根一(出)結城一郎、齋藤達雄、松井潤子、飯田蝶子、高松栄子、小藤田正一、大国一郎、坂本武、日守新一、山田房生、笠智衆、小倉繁

調子のいい軟派学生(結城一郎)とぐうたら学生(齋藤達雄)とがスキー旅行を舞台に繰り広げる明朗な学生喜劇で、とりわけスキー場のシーンで連発されるギャグが鮮やか。小津自身の「若き日」のみずみずしいタッチが堪能できる、現存する最も初期の作品。

『落第はしたけれど』(64分・35mm・白黒・無声・不完全)

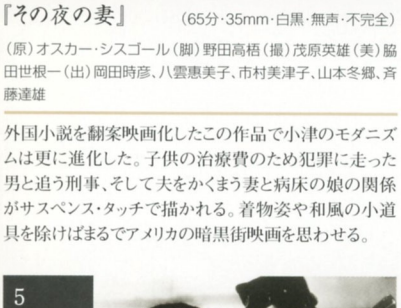
(原)小津安二郎(脚)伏見晃(撮)茂原英雄(美)脇田世根一(出)齋藤達男、田中絹代、二葉かほる、青木富夫、若林廣雄、大国一郎、横尾泥海男、関時男、三倉博、横山五郎、月田一郎、笠智衆、

卒業しても就職できない学友を尻目に学生生活をエンジョイしている落第生が主人公の作品。逆を描いた『大学は出たけれど』に続いて絹代が主演、小津の青春時代を彷彿とさせる学生たちの行動、行為は明らかに米映画『ロイドの人気者』(1925年)の影響である。

『突貫小僧』 (14分·35mm·白黒·無声·パテベビー短縮版)

(原)野津忠二(脚)池田忠雄(撮)野村昊、茂原英雄(出)斎藤達雄、青木富夫、坂本武

原作者名は野田高悟、池田忠雄、大久保忠素と小津の合成であり、たった3日で撮りあげた短篇喜劇。前作『会社員生活』でデビューを飾った子役青木富夫が主役として再起用され、配役名が芸名となってしまった。



『その夜の妻』 (65分·35mm·白黒·無声·不完全)

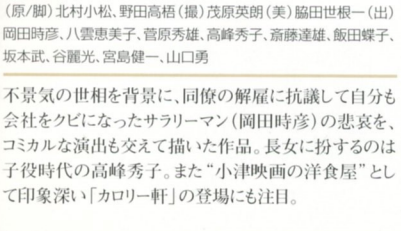
(原)オスカー・シスゴール(脚)野田高梧(撮)茂原英雄(美)脇田世根一(出)岡田時彦、八雲恵美子、市村美津子、山本冬郷、斉藤達雄

外国小説を翻案映画化したこの作品で小津のモダニズムは更に進化した。子供の治療費のため犯罪に走った男と追う刑事、そして夫をかくまう妻と病床の娘の関係がサスペンス・タッチで描かれる。着物姿や和風の小道具を除けばまるでアメリカの暗黒街映画を思わせる。

『淑女と髯』 (74分·35mm·白黒·無声)

(原/脚)北村小松(ギャグマン)ヂェームス槇(撮)茂原英朗(美)脇田世根一(出)岡田時彦、川崎弘子、飯田蝶子、伊達里子、月田一郎、飯塚敏子、吉川満子、坂本武、斎藤達雄、岡田宗太郎

髯が災いして恋にも就職にも縁のない剣道一筋の蛮から大学生が、髯を剃ったことで体験する新たな世界——天下の二枚目にして喜劇センスにも秀でた岡田時彦が主演する爆笑ナンセンス・コメディ。川崎弘子、伊達里子、飯塚敏子がそれぞれ演じる三種の女性像の造形も秀逸。



『東京の合唱(コーラス)』 (90分·35mm·白黒·無声)

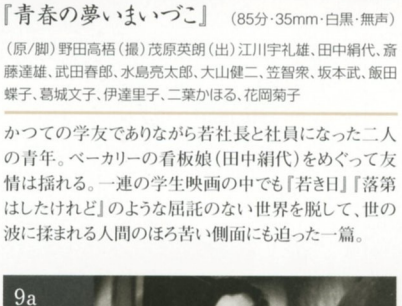
(原/脚)北村小松、野田高梧(撮)茂原英朗(美)脇田世根一(出)岡田時彦、八雲恵美子、菅原秀雄、高峰秀子、斎藤達雄、飯田蝶子、坂本武、谷麗光、宮島健一、山口勇

不景気の世相を背景に、同僚の解雇に抗議して自分も会社をクビになったサラリーマン(岡田時彦)の悲哀を、コミカルな演出も交えて描いた作品。長女に扮するのは子役時代の高峰秀子。また"小津映画の洋食屋"として印象深い「カロリー軒」の登場にも注目。

『大人の見る絵本 生れてはみたけれど』 (91分·35mm·白黒·無声)

(原)ゼームス槇(脚)伏見晃(撮)茂原英朗(美)河野鷹思(出)斎藤達雄、吉川満子、菅原秀雄、突貫小僧、阪本武、早見照代、加藤清一、小藤田正一、西村青兒、飯島善太郎、藤松正太郎

しみじみとした味わいを強調した「小市民映画」の代表作。ナンセンス喜劇や青春明朗劇、ハリウッド風の都会劇を得意とした小津であったが、この作品では父の会社の上下関係が子供の世界にまで及ぶ現実を描き、人生の悲哀感を色濃くにじませるようになった。



『青春の夢いまいづこ』 (85分·35mm·白黒·無声)

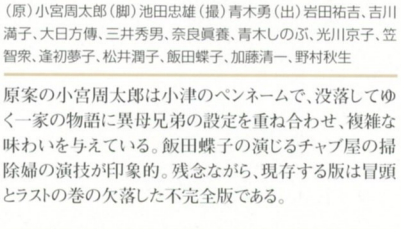
(原/脚)野田高梧(撮)茂原英朗(出)江川宇礼雄、田中絹代、斎藤達雄、武田春郎、水島亮太郎、大山健二、笠智衆、坂本武、飯田蝶子、葛城文子、伊達里子、二葉かほる、花岡菊子

かつての学友でありながら若社長と社員になった二人の青年。ベーカリーの看板娘(田中絹代)をめぐって友情は揺れる。一連の学生映画の中でも『若き日』『落第はしたけれど』のような屈託のない世界を脱して、世の波に揉まれる人間のほろ苦い側面にも迫った一篇。

『東京の女』 (47分·35mm·白黒·無声·不完全)

(原)エルンスト・シュワルツ(脚)野田高梧、池田忠雄(撮)茂原英朗(美)金須孝(出)岡田嘉子、江川宇礼雄、田中絹代、奈良眞養

警察ににらまれた姉の身を案ずる弟の苦悩を描き、時代の行きづまった空気も感じさせる一篇。現存する数少ない岡田嘉子主演の小津作品で、監督自身は、低いアングルなどの画面のポジションはこの頃決まったと回想している。なおシュワルツなる原作者は架空の人物。



『母を恋はずや』 (72分·35mm·白黒·無声·不完全)

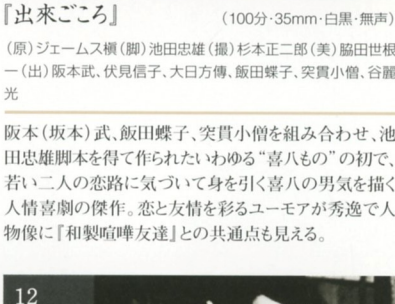
(原)小宮周太郎(脚)池田忠雄(撮)青木勇(出)岩田祐吉、吉川満子、大日方傳、三井秀男、奈良眞養、青木しのぶ、光川京子、笠智衆、逢初夢子、松井潤子、飯田蝶子、加藤清一、野村秋生

原案の小宮周太郎は小津のペンネームで、没落してゆく一家の物語に異母兄弟の設定を重ね合わせ、複雑な味わいを与えている。飯田蝶子の演じるチャブ屋の掃除婦の演技が印象的。残念ながら、現存する版は冒頭とラストの巻の欠落した不完全版である。

『非常線の女』 (100分·35mm·白黒·無声)

(原)ゼームス槇(脚)池田忠雄(撮)茂原英朗(美)脇田世根一(出)田中絹代、岡譲二、水久保澄子、三井英夫、逢初夢子、高山義郎、加賀晃二、南條康雄、谷麗光、竹村信夫、鹿島俊作、西村青児

岡譲二と田中絹代を暗黒街の男と情婦に配した異色の和製ギャング映画で、二人は与太者とその可憐な姉を自分の属す悪の世界から救う。若き小津のアメリカ映画好きを窺わせる"洋才"の作品だが、衣裳・美術に至るまで細部のセンスの良さには目を瞠らされる。



『出来ごころ』 (100分·35mm·白黒·無声)

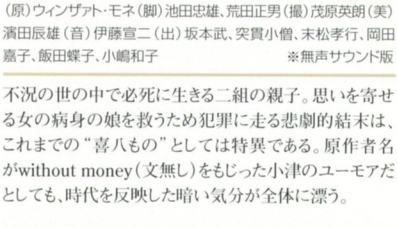
(原)ジェームス槇(脚)池田忠雄(撮)杉本正二郎(美)脇田世根一(出)阪本武、伏見信子、大日方傳、飯田蝶子、突貫小僧、谷麗光

阪本(坂本)武、飯田蝶子、突貫小僧を組み合わせ、池田忠雄脚本を得て作られたいわゆる"喜八もの"の初で、若い二人の恋路に気づいて身を引く喜八の男気を描く人情喜劇の傑作。恋と友情を彩るユーモアが秀逸で人物像に『和製喧嘩友達』との共通点も見える。

『浮草物語』 (86分·35mm·白黒·無声)

(原)ジェームス槇(脚)池田忠雄(撮)茂原英朗(美)浜田辰雄(出)坂本武、飯田蝶子、三井秀男、八雲理惠子(恵美子)、坪内美子、突貫小僧、谷麗光、西村青兒、山田長正、青野清、油井宗信、平陽光

アメリカ映画に傾倒していた小津は、『チャンプ』(1931年)を翻案した『出来ごころ』に続き、米作品『煩悩』(1928年)を下敷きに、下町人情劇"喜八もの"の第2作を発表した。ドサ廻りのしがない役者たちが主人公で、哀愁もひときわ強く感じられる。



『東京の宿』 (80分·35mm·白黒·サウンド版)

(原)ウィンザァト・モネ(脚)池田忠雄、荒田正男(撮)茂原英朗(美)濱田辰雄(音)伊藤宣二(出)坂本武、突貫小僧、末松孝行、岡田嘉子、飯田蝶子、小嶋和子 ※無声サウンド版

不況の世の中で必死に生きる二組の親子。思いを寄せる女の病身の娘を救うため犯罪に走る悲劇的結末は、これまでの"喜八もの"としては特異である。原作者名がwithout money(文無し)をもじった小津のユーモアだとしても、時代を反映した暗い気分が全体に漂う。

14a

1936年
国際文化振興会
＝松竹大船

『鏡獅子』

（24分·35mm·白黒·日本語版）

（撮）茂原英雄（出）尾上菊五郎、尾上琴次郎、尾上しげる

日本文化の海外への紹介のため、国際文化振興会が松竹に委嘱して六代目尾上菊五郎の踊りを撮影させた、小津唯一の記録映画。この特集では松竹大谷図書館所蔵の日本語版（フィルムセンター所蔵の英語版より長い）を上映する。

14b

1937年
松竹大船

『淑女は何を忘れたか』

（71分·35mm·白黒）

（脚）伏見晃、ゼームス槇（撮）茂原英雄、厚田雄治（美）浜田辰雄（音）伊藤宣二（出）栗島すみ子、齋藤達雄、桑野通子、佐野周二、坂本武、飯田蝶子、上原謙、吉川満子、葉山正雄、突貫小僧

恐妻家の大学教授（斎藤達雄）の一家に、大阪からとびきり元気な姪（桑野通子）が飛び込んできて、一騒動を巻き起こすソフィスティケイティッド・コメディの秀作。小津と終生のコンビとなるキャメラマン厚田雄治（雄春）との最初の映画でもある。

15

1936年
松竹大船

『一人息子』

（83分·35mm·白黒）

（原）ゼームス槇（脚）池田忠雄、荒田正男（撮）杉本正次郎（美）浜田辰雄（音）伊藤宣二（出）飯田蝶子、日守新一、葉山正雄、坪内美子、吉川満子、笠智衆、浪花友子、爆弾小僧、突貫小僧

小津の「茂原式トーキー」による第1作で、国産トーキーが出現してから5年後のトーキー進出だった。冒頭に「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」の言葉が示され、立身出世に敗れた母子の絶望感がラストのかんぬきを下ろされた門に強調されている。

16

1941年
松竹大船

『戸田家の兄妹』

（105分·35mm·白黒）

（脚）池田忠雄、小津安二郎（撮）厚田雄治（美）浜田辰雄（音）伊藤宣二（出）藤野秀夫、葛城文子、吉川満子、斎藤達雄、三宅邦子、佐分利信、坪内美子、近衛敏明、高峰三枝子、桑野通子、河村黎吉

中国戦線から帰還した小津の久々の作品は、父の死をきっかけに解体してゆく大家族を描き出した、大船スター総出演の家族劇である。結末のシーンで、薄情な兄や姉を批判する次男（佐分利信）の言葉は、その決然とした態度によって強いカタルシスを感じさせる。

17

1942年
松竹大船

『父ありき』

（94分·35mm·白黒）

（脚）池田忠雄、柳井隆雄、小津安二郎（撮）厚田雄治（美）濱田辰雄（音）彩木暁一（出）笠智衆、佐野周二、佐分利信、坂本武、水戸光子、津田晴彦、大塚正義、日守新一、西村青児、谷麗光、河原侃二

戦時下の唯一の小津作品。男手ひとつで育てながら、別々に暮らさねばならぬ父（笠智衆）と息子（佐野周二）との深い哀歓を描いた小津映画の一つの頂点。近年、ロシアで不完全ながらも音声の優れた35mm版が発見されたが、今回上映されるのは旧来の版である。

18

1947年
松竹大船

『長屋紳士録』

（72分·35mm·白黒）

（脚）小津安二郎、池田忠雄（撮）厚田雄春（美）浜田辰雄（音）斎藤一郎（出）飯田蝶子、青木放屁、小澤榮太郎、吉川満子、河村黎吉、三村秀子、笠智衆、坂本武、高松榮子、長船フジヨ、河野祐一

焼け野原で迷った孤児を、文句を言いつつも引き取って面倒を見てやる長屋の心ある人々。シンガポールから引き揚げてきた小津の戦後第1作で、飯田蝶子、河村黎吉、笠智衆といった大船の名優たちが再び結集し、新しい小津世界を築き上げるきっかけとなった。

19

1948年
松竹大船

『風の中の牝雞』

（72分·35mm·白黒）

（脚）齋藤良輔、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）伊藤宣二（出）佐野周二、田中絹代、村田知英子、笠智衆、坂本武、高松榮子、水上令子、文谷千代子、長尾敏之助、中川健三

復員後第2作で、幼子の急病と入院のためにやむを得ず一夜身を売った妻（田中絹代）を、戦地から帰った夫（佐野周二）が許すまでを描く。そのテーマ性によって『雪割草』『恋文』といった一連の“戦争と貞操”もの映画に位置付けられてもなお、演出は小津らしく緻密。

20

1949年
松竹大船

『晩春』

（108分·35mm·白黒）

（原）廣津和郎（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）伊藤宣二（出）笠智衆、原節子、月丘夢路、杉村春子、青木放屁、宇佐美淳、三宅邦子、三島雅夫、坪内美子、桂木洋子

小津の戦後3作目で作品評価の高さとともに興行的成功も収めた。やもめの父を気遣って結婚をためらう娘とそれを見守る善意の人々の物語は、その後の小津の作風を決定づけ、復活した脚本家野田とのコンビは遺作の『秋刀魚の味』まで続く。杉村の演技が絶妙。

21

1950年
新東宝

『宗方姉妹』

（97分·35mm·白黒）

（原）大佛次郎（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）小原譲治（美）下河原友雄（音）齋藤一郎（出）田中絹代、高峰秀子、上原謙、高杉早苗、笠智衆、山村聰、堀雄二、河村黎吉、齋藤達雄、藤原釜足

大新聞の連載小説として評判を呼んだ同名原作を映画化したもの。死期を悟っている父と古風な姉と勝ち気な妹、姉を疑う病弱な夫と昔の恋人、その青年に思いを寄せる未亡人といった多彩で複雑な人間関係を田中、高峰、上原、高杉らの松竹スターが演じている。

22

1951年
松竹大船

『麦秋』

（124分·35mm·白黒）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）伊藤宣二（出）原節子、笠智衆、淡島千景、三宅邦子、菅井一郎、東山千榮子、佐野周二、杉村春子、二本柳寛、井川邦子、高橋豐子

28歳を迎えた娘の結婚話をめぐる家族らの心情を、多彩な人間関係と細部豊かなエピソードで綴った一篇。卓抜なカット割りとシーンつなぎによって、エゴに向き合う人間の孤独と崩れていく大家族への愛おしい思い、新たに生まれる家族への希望が見事に織り重なった。

23

1952年
松竹大船

『お茶漬の味』

（115分·35mm·白黒）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）齋藤高順（出）佐分利信、木暮實千代、鶴田浩二、笠智衆、淡島千景、津島惠子、三宅邦子、柳永二郎、十朱久雄、望月優子、設楽幸嗣

生まれや気質の違いゆえに心の通わない中年夫婦が、夫の南米行きを契機に互いの絆を確認しあう。戦時中に映画化できなかった出征前夜の物語を、海外出張という設定に変えて実現。乗り物、娯楽、食べ物など、戦後生活を彩る諸相が随所に散りばめられている。

24

1953年
松竹大船

『東京物語』

（135分·35mm·白黒）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）齋藤高順（出）笠智衆、東山千榮子、原節子、杉村春子、山村聰、三宅邦子、香川京子、東野英治郎、中村伸郎、大坂志郎、十朱久雄

年老いた親が成長した子供たちを訪ねて親子の情愛を確認しあうという題材が、小津の手にかかるとどうなるかを示す傑作。何気ない言動が教える各人の生活、思いがけない心情の吐露と発見、そして何事もなかったような人生の悲哀と深淵が見事に描かれている。

25

1956年
松竹大船

『早春』

（144分·35mm·白黒）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）齋藤高順（出）淡島千景、池部良、高橋貞二、岸惠子、笠智衆、山村聰、藤乃高子、田浦正巳、杉村春子、浦邊粂子、三宅邦子、東野英治郎

通勤電車で顔なじみの丸の内勤めの男女が織りなす哀歓に満ちた人間模様。一児を亡くしてから妻との関係に隙間風が吹く杉山（池部良）とそんな彼を愛する現代娘千代（岸惠子）の不倫を主軸に、戦後10年が過ぎたころのサラリーマンや若者の心情を活写している。

26

1957年
松竹大船

『東京暮色』

（140分·35mm·白黒）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）濱田辰雄（音）斉藤高順（出）原節子、有馬稲子、笠智衆、山田五十鈴、高橋貞二、田浦正巳、杉村春子、山村聰、信欣三、藤原釜足、中村伸郎

二人の娘を残して母が去った、男手一つの家庭の物語。妹（有馬稲子）は年下の学生（田浦正巳）の子を身籠り、母の秘密を知り、果ては失意の中で命を落とすという設定で、小津映画の中で、もっとも暗く悲観的な印象を残す、という意味では異色の作品と言える。

27

1958年
松竹大船

『彼岸花』

（118分·35mm·カラー）

（原）里見弴（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）浜田辰雄（音）斉藤高順（出）佐分利信、田中絹代、有馬稲子、久我美子、佐田啓二、高橋貞二、山本富士子、桑野みゆき、笠智衆、浪花千栄子

自分に相談もせず、結婚相手を決めた娘（有馬稲子）のふるまいに動揺する父親（佐分利信）の姿を描く。娘の結婚を応援する山本富士子の助演も絶妙。初のカラー作品で、監督が好んだドイツのアグファカラーの落ち着いた発色は、以後“小津の色”として定着する。

28

1959年
松竹大船

『お早よう』

（94分·35mm·カラー）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）浜田辰雄（音）黛敏郎（出）佐田啓二、久我美子、笠智衆、三宅邦子、杉村春子、設楽幸嗣、島津雅彦、泉京子、高橋とよ、沢村貞子、東野英治郎

近所付き合いの小さな波風にふり回される大人たちと、テレビを買ってとねだり大人を困らせる子供たち。東京郊外の新興住宅地を舞台に、戦後の庶民生活を小津流に活写した作品で、軽さのある演出が際立っている。幼い兄弟のオナラのギャグが実に微笑ましい。

29

1959年
大映京都

『浮草』

（120分·35mm·カラー）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）宮川一夫（美）下河原友雄（音）斉藤高順（出）中村鴈治郎、京マチ子、若尾文子、川口浩、杉村春子、野添ひとみ、笠智衆、三井弘次、田中春男、入江洋佑、星ひかる

志摩半島の漁村を舞台に、旅回り一座と一膳飯屋の母子らが織り成す人間模様を描いた『浮草物語』の再映画化。色鮮やかな海辺の景色に役者衆の華やかな個性。これが唯一の小津作品となった宮川一夫のカメラと相俟って、落魄の物語に絢爛さを醸し出している。

30

1960年
松竹大船

『秋日和』

（128分·35mm·カラー）

（原）里見弴（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）浜田辰雄（音）斉藤高順（出）原節子、司葉子、岡田茉莉子、佐田啓二、桑野みゆき、三上真一郎、佐分利信、笠智衆、中村伸郎、三宅邦子

亡夫の七回忌を終えた美しい未亡人（原節子）と、婚期を迎えた娘（司葉子）の間に起きる小さな心の波風を繊細に描く名作。取り巻きの紳士たちのユーモアに小津の余裕に満ちた練達の技が見える。『晩春』の父娘関係を母娘に置き換えてカラー化した作品とも言える。

31

1961年
宝塚映画

『小早川家の秋』

（103分·35mm·カラー）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）中井朝一（美）下河原友雄（音）黛敏郎（出）中村鴈治郎、原節子、司葉子、新珠三千代、小林桂樹、森繁久弥、宝田明、加東大介、団令子、白川由美、山茶花究

伏見で造り酒屋を営む一家の人間ドラマ。小津が宝塚映画に出向して撮った作品で、小津組の常連に東宝の主役級と、キャスティングは豪華。飄々とした関西弁の台詞回しや京の町家の暗がりに匂い立つ寂寥感が、当主のあっけない死をめぐる本作の滋味になっている。

32

1962年
松竹大船

『秋刀魚の味』

（112分·35mm·カラー）

（脚）野田高梧、小津安二郎（撮）厚田雄春（美）浜田辰雄（音）斎藤高順（出）岩下志麻、笠智衆、佐田啓二、岡田茉莉子、吉田輝雄、牧紀子、三上真一郎、中村伸郎、東野英治郎、三宅邦子、岸田今日子

小津の遺作で、男手一つで育てた娘を嫁に出す父（笠智衆）の気持ち、嫁に行く当の娘（岩下志麻）の心情を細やかに描き出す。仲のいい初老の紳士たち、うらぶれ老いた恩師とその娘、父の海軍時代の部下、戦後的な兄夫婦など、主筋以外の点描も余裕に満ちて見事。

33

1937年
日活多摩川

『限りなき前進』

（78分·35mm·白黒·改編版）

（監）内田吐夢（原）小津安二郎（脚）八木保太郎（撮）碧川道夫（美）堀保治（音）山田栄一（出）小杉勇、江川宇礼雄、轟夕起子、滝花久子、片山明彦、飛田喜佐夫、紅沢葉子、上代勇吉、東勇路、西春彦

小津の原作を内田吐夢が監督したもので、謹厳実直に勤めてきた停年間近のサラリーマン（小杉勇）が、昇進の夢が潰えて正気を失っていく悲哀を、繊細かつ残酷に描く。公開時ベストテン1位の作品で、両巨匠の個性と日活多摩川撮影所の実力が如実に現れた。

34

1955年
日活

『月は上りぬ』

（102分·35mm·白黒）

（監）田中絹代（脚）齋藤良輔、小津安二郎（撮）峰重義（美）木村威夫（音）齋藤高順（出）笠智衆、佐野周二、山根壽子、杉葉子、北原三枝、三島耕、安井昌二、田中絹代、増田順二、小田切みき

『長屋紳士録』の後に斎藤良輔と仕上げた脚本を、日活の本格的製作再開を記念して田中絹代が映画化。奈良に住むやもめの父が三姉妹の結婚話にやきもきする物語で、松竹から移籍して間もない北原三枝と、役名を芸名にしてデビューした安井昌二が主演した。

35

1965年
松竹大船

『大根と人参』

（105分·35mm·カラー）

（監/脚）澁谷実（原）野田高梧、小津安二郎（脚）白坂依志夫（撮）長岡博之（美）芳野尹孝（音）黛敏郎（出）笠智衆、乙羽信子、加賀まりこ、桑野みゆき、岩下志麻、長門裕之、岡田茉莉子、有馬稲子

母を喪った年に撮った『秋刀魚の味』の後、小津が次回作に準備していた原案は、彼の死後に映画化された。初老の同窓会から始まるシーンがわずかに小津映画を偲ばせるが、その皮相な人間観は渋谷・白坂のもの。小津組のスターが勢揃いした正月の記念映画。

36

1966年
松竹

『暖春』

（93分·35mm·カラー）

（監/脚）中村登（原）里見弴、小津安二郎（撮）成島東一郎（美）大角純一（音）山本直純（出）岩下志麻、森光子、山形勲、三宅邦子、有島一郎、乙羽信子、長門裕之、早川保、桑野みゆき、倍賞千恵子

小津が長きにわたって親交を深めた里見弴とともに書いた原作を、その死後、中村登が脚色・監督した。小料理屋の娘（岩下志麻）の縁談をめぐる小津好みの物語だが、『秋刀魚の味』の後、岩下は『古都』『紀ノ川』『智恵子抄』といった中村作品で頭角を現した。

上映
プログラム

小津安二郎生誕100年記念

小津安二郎の藝術

Yasujiro Ozu: Japanese Film Master

2003年		1回目 平日13:00～／土・日・祝10:30～	2回目 平日16:00～／土・日・祝13:30～	3回目 平日19:00～／土・日・祝16:30～
11月 18日 火		32 秋刀魚の味	31 小早川家の秋	30 秋日和
19日 水		29 浮草	28 お早よう	27 彼岸花
20日 木		26 東京暮色	25 早春	24 東京物語
21日 金		23 お茶漬の味	22 麦秋	21 宗方姉妹
22日 土		20 晩春	19 風の中の牝雞	18 長屋紳士録
23日 日		17 父ありき	16 戸田家の兄妹	15 一人息子
25日 火		14a/b 鏡獅子／淑女は何を忘れたか	13 東京の宿	29 浮草
26日 水		21 宗方姉妹	20 晩春	32 秋刀魚の味
27日 木		31 小早川家の秋	19 風の中の牝雞	28 お早よう
28日 金		27 彼岸花	30 秋日和	26 東京暮色
29日 土		25 早春	23 お茶漬の味	14a/b 鏡獅子／淑女は何を忘れたか
30日 日		13 東京の宿	24 東京物語	22 麦秋
12月 2日 火		18 長屋紳士録	17 父ありき	15 一人息子
3日 水		16 戸田家の兄妹	26 東京暮色	31 小早川家の秋
4日 木		33 限りなき前進	34 月は上りぬ	35 大根と人参
5日 金		36 暖春	35 大根と人参	33 限りなき前進
6日 土		34 月は上りぬ	33 限りなき前進	36 暖春
7日 日		35 大根と人参	36 暖春	34 月は上りぬ
9日 火	★ピアノ生演奏つき上映	1 若き日	2a/b 和製喧嘩友達／朗かに歩め	3a/b 大学は出たけれど／落第はしたけれど
10日 水	★ピアノ生演奏つき上映	4a/b 突貫小僧／その夜の妻	5 淑女と髭	6 東京の合唱
11日 木	★ピアノ生演奏つき上映	7 生れてはみたけれど	8 青春の夢いまいづこ	9a/b 東京の女／母を恋はずや
12日 金	★ピアノ生演奏つき上映	10 非常線の女	11 出来ごころ	12 浮草物語
13日 土	★ピアノ生演奏つき上映		1 若き日	7 生れてはみたけれど
14日 日	★ピアノ生演奏つき上映		2a/b 和製喧嘩友達／朗かに歩め	10 非常線の女
16日 火	★ピアノ生演奏つき上映	6 東京の合唱	9a/b 東京の女／母を恋はずや	5 淑女と髭
17日 水	★ピアノ生演奏つき上映	3a/b 大学は出たけれど／落第はしたけれど	12 浮草物語	8 青春の夢いまいづこ
18日 木	★ピアノ生演奏つき上映	11 出来ごころ	4a/b 突貫小僧／その夜の妻	10 非常線の女
19日 金		2a/b 和製喧嘩友達／朗かに歩め	6 東京の合唱	1 若き日
20日 土		3a/b 大学は出たけれど／落第はしたけれど	5 淑女と髭	8 青春の夢いまいづこ
21日 日		9a/b 東京の女／母を恋はずや	11 出来ごころ	6 東京の合唱
23日 火・祝		12 浮草物語	10 非常線の女	4a/b 突貫小僧／その夜の妻
24日 水		9a/b 東京の女／母を恋はずや	7 生れてはみたけれど	11 出来ごころ
25日 木		12 浮草物語	3a/b 大学は出たけれど／落第はしたけれど	2a/b 和製喧嘩友達／朗かに歩め
26日 金		5 淑女と髭	8 青春の夢いまいづこ	4a/b 突貫小僧／その夜の妻
27日 土		7 生れてはみたけれど	1 若き日	2a/b 和製喧嘩友達／朗かに歩め
2004年				
1月 6日 火		28 お早よう	21 宗方姉妹	25 早春
7日 水		30 秋日和	24 東京物語	23 お茶漬の味
8日 木		20 晩春	32 秋刀魚の味	22 麦秋
9日 金		17 父ありき	29 浮草	19 風の中の牝雞
10日 土		27 彼岸花	31 小早川家の秋	26 東京暮色
11日 日		30 秋日和	21 宗方姉妹	28 お早よう
13日 火		24 東京物語	16 戸田家の兄妹	20 晩春
14日 水		15 一人息子	14a/b 鏡獅子／淑女は何を忘れたか	18 長屋紳士録
15日 木		13 東京の宿	27 彼岸花	17 父ありき
16日 金		25 早春	18 長屋紳士録	16 戸田家の兄妹
17日 土		32 秋刀魚の味	29 浮草	22 麦秋
18日 日		31 小早川家の秋	27 彼岸花	20 晩春
20日 火		19 風の中の牝雞	23 お茶漬の味	26 東京暮色
21日 水		22 麦秋	17 父ありき	13 東京の宿
22日 木		29 浮草	15 一人息子	18 長屋紳士録
23日 金		21 宗方姉妹	19 風の中の牝雞	14a/b 鏡獅子／淑女は何を忘れたか
24日 土		23 お茶漬の味	25 早春	30 秋日和
25日 日		28 お早よう	32 秋刀魚の味	24 東京物語

2003年11月18日（火）～2004年1月25日（日）

（2003年12月28日～2004年1月5日・月曜日休）

東京国立近代美術館フィルムセンター・大ホール

主　催●東京国立近代美術館フィルムセンター、松竹株式会社

協　力●朝日新聞社、東宝株式会社、株式会社角川大映映画、日活株式会社

入場料	日時指定券（ぴあ取扱い）	当日券	★ピアノ生演奏つき上映 日時指定券（ぴあ取扱い）	★ピアノ生演奏つき上映 当日券
一般	1,300円（全席自由席）	1,300円	1,500円（全席自由席）	1,500円
高校・大学生、65歳以上		1,000円		1,200円
小学・中学生		800円		1,000円

★ピアノ生演奏つき上映は左記上映スケジュールの■部分をご参照ください。

●各回定員310名（★ピアノ生演奏つき上映は定員300名）、入替制、自由席です。
開場は上映45分前です。

●日時指定券は10月18日（土）から各上映の2日前までチケットぴあで発売します。
日時指定券は各回250枚まで発売します。
ファミリーマート、セブン-イレブン、サンクスでも購入できます。
◆音声認識予約　0570-02-9999（10:00～18:00）
◆Pコード予約　03-5237-9966（10:00～23:30）　Pコード=550-005

●日時指定券の払い戻し及び変更はいたしません。

●開映後の入場はできません。お早めにご来場下さい。

●当日券は上映45分前から発売、定員に達し次第締切となります。

●記載した上映分数は当日のものと異なる場合があります。

●シニア（65歳以上）の方は必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

●お問合せ:ハローダイヤル　03-5777-8600
松竹株式会社　03-5623-1306

http://www.ozu100.jp

同時開催

映画資料でみる

蒲田時代の小津安二郎と清水宏

2003年11月18日（火）～2004年3月28日（日）

東京国立近代美術館フィルムセンター・展示室（7階）

10:30～18:00（12月28日～1月5日、1月26日～2月2日・月曜日休／入場は17:30まで）

入場料			
	一般	200円	（100円）
	大学生、65歳以上	70円	（40円）
（　）内は20名以上の団体料金	高校生	40円	（20円）

●料金は常設の「展覧会　映画遺産」の入場料を含みます。

●大・小ホールで映画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

●シニア（65歳以上）の方は必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

NFC

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center

The National Museum of Modern Art, Tokyo

〒104-0031　東京都中央区京橋3-7-6

交　通●営団地下鉄◎銀座線『京橋駅』下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄◎浅草線『宝町駅』下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
営団地下鉄◎有楽町線『銀座一丁目駅』下車、出口7より　徒歩5分
JR『東京駅』下車、八重洲南口より徒歩10分

http://www.momat.go.jp/fc.html

朝日新聞創刊125周年記念
小津安二郎生誕100年記念
国際シンポジウム

OZU 2003

2003年12月11日（木）～12月12日（金）

有楽町朝日ホール　千代田区有楽町2-5-1 マリオン11階

主　催●朝日新聞社、松竹、東京国立近代美術館フィルムセンター、国際交流基金

協　力●せんだいメディアテーク

運営協力●ぴあ

12月11日（木）

12:30～14:00　座談会『生きている小津』
蓮實重彦、吉田喜重、山根貞男

14:00～16:30　『世界の評論家が見た小津』（司会:蓮實重彦）
シャルル・テッソン、ジャン=ミッシェル・フロドン、ノエル・シムソロ、クリス・フジワラ、イム・ジェチョル　ほか

16:30～17:00　休憩

17:00～18:00　『女優に聞く-1』井上雪子、岡田茉莉子　ほか

18:00～20:00　『世界の監督たちが見た小津』（司会:蓮實重彦）
アッバス・キアロスタミ、ヴィム・ヴェンダース、ビクトル・エリセ、ホウ・シャオシェン、吉田喜重　ほか

12月12日（金）

11:30～13:30　『日本の監督たちが見た小津』（司会:山根貞男）
青山真治、黒沢清、是枝裕和、崔洋一、澤井信一郎　ほか

13:30～14:30　『女優に聞く-2』香川京子　ほか

14:30～15:00　休憩

15:00～17:00　全体討議とまとめ
『海外及び国内の参加者たちを交えて』
（司会:蓮實重彦、吉田喜重、山根貞男）
アッバス・キアロスタミ、ヴィム・ヴェンダース、ビクトル・エリセ、ホウ・シャオシェン、青山真治、黒沢清、是枝裕和、崔洋一、澤井信一郎　ほか

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

18:00～20:00　小津安二郎監督に捧ぐホウ・シャオシェン監督作品
『珈琲時光』（原題）　ワールド・プレミア

入場料	前売り（ぴあ取扱い）	1日券	各日　2,500円
		試写付き2日券	5,000円（250枚限定）※
	当日券	1日券	各日　3,000円

※試写作品のホウ・シャオシェン監督『珈琲時光』（原題）は、ホウ監督が小津安二郎に捧げる映画です。世界初上映で上映時間は未定。なお新作の製作進行状況により、チケット発売日に12月12日の試写が難しいと判断した場合は、このチケットは販売いたしませんのでご了承願います。

●お問合せ:03-5623-1306（平日のみ）03-3218-1514（会期中のみ）

http://www.ozu100.jp

●予定されているパネリストの一部が諸般の事情で欠席する場合があります。

●前売り券は11月15日（土）から12月9日（火）までチケットぴあで発売します。
ファミリーマート、セブン-イレブン、サンクスでも購入できます。
◆音声認識予約　0570-02-9999（10:00～18:00）
◆Pコード予約　03-5237-9966（10:00～23:30）
Pコード=550-001（1日券）、550-002（試写付き2日券）

●前売り券の払い戻しはいたしません。

●前売り券が売り切れた場合は、当日券はございません。

● ● ●

シンポジウム参加監督のヴィム・ヴェンダース、ビクトル・エリセが参加する2本の究極のコンピレーションフィルム『10ミニッツ・オールダー』は、『人生のメビウス』を恵比寿ガーデンシネマ、『イデアの森』をシャンテシネ（日比谷）にてお正月上映決定。

小津作品は、私の成長を促し、また啓発を与えてくれました。小津作品を見続けてきて、そこで語られるのが日本の家庭であっても、登場人物にはっきりと普遍性が見出せます。小津作品に私が見出すものは、父、母、そして私の弟妹たちであり、時に自分自身の姿でさえありました。それは鏡のようで、水に映る影ともいえます。

——スタンリー・クワン

この映画監督の墓にお参りすることは、私にはとても大切なことです。なぜなら彼は映画を20世紀の芸術として誰も真似のできない再現不可能な美にまで高めたからです。彼の作品は私にとって映画の聖域です。だからお墓参りは巡礼のようなものです。小津を知り、彼の映画こそ世界中の言語だと確信しました。

——ヴィム・ヴェンダース

76年、兄にロンドンで強引に見せられたのが『東京物語』です。その時から、私は文学への憧れを捨てて赤いヤカンを探すことにしました。アメリカ映画の影響を受けて育った私が、小津監督を尊敬するのは、人生の根源を描くとき、一度として殺人や暴力や銃を使わなかったことです。
私の墓には「生れてはみたけれど」と刻みます。

——アキ・カウリスマキ

映画は時間が経つと時代遅れになるという人がいますが、私はそうは思いません。特に、古典的に作られ、小津監督の精神で作られた映画は違います。彼の人生に対する偉大な理解は、今もその作品の中に生きています。それは誠実に生きることへの理解であり、また彼のユーモアに皮肉はありません。だからこそ偉大な映画監督の作品として生き続けるのだと思います。

——リンゼイ・アンダーソン

小津作品は私のみならず、同世代の映画作家に、映画が見るものに影響を与える手法について、いわゆる映画的な手法すなわちエネルギッシュな手法ではない、もっと静かで興味深い手法があることを示してくれたのです。私は小津と他の映画作家の共通点を追求し、小津に取りつかれてしまいました。

——ポール・シュレーダー

小津監督は、どこか数学者のようです。彼は当時の日本人の生活を把握していて、それも透徹している。まるで冷静な解剖、解析をする人であって、つまり数学者なわけです。
私は小津作品をみて強い啓示を与えられました。日本のあの時代に、小津監督のような存在があったこと。それは幸運なことでした。

——ホウ・シャオシェン

小津監督の作品を初めてみた時、いわゆる通俗的な意味で映画が語りかけてくるというのではなく、何か私自身に訴えてくるものを感じました。

——クレール・ドニ

小津安二郎生誕90周年記念作品「小津と語る」（1993年・松竹）より

Yasujiro Ozu : Japanese Film Master

小津安二郎生誕100年

小津安二郎監督に捧ぐ
ホウ・シャオシェン監督作品『珈琲時光』（原題）

出演●一青窈／浅野忠信／萩原聖人／余貴美子／小林稔侍
製作●松竹／朝日新聞社／住友商事／衛星劇場／IMAGICA
配給●松竹　（2004年公開予定）

『童年往時―時の流れ―』（ベルリン映画祭国際批評家連盟賞）、『悲情城市』（ヴェネチア映画祭金獅子賞）、『戯夢人生』（カンヌ映画祭審査員賞）・・・、数々の傑作を生み、各国の映画祭で常に注目を集める台湾の巨匠ホウ・シャオシェン監督が、小津安二郎監督へのオマージュとして、現代の日本の情景を、日本のキャストで撮影。
小津作品から想起した家族の物語を、入念な取材をもとに独創的なスタイルで描く『珈琲時光』（原題）は、世界中の映画ファンの期待に応えます。